



宮司、プレス 第百九十八号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和五年三月 十五日

◇宮司の柴田です。 三月の別名(べつめい)を「弥生(やよい)」といいます。 それ

は、 木草弥生(きくさいやよい) 茂(しげ)る月、つまり、草木のいよいよ生(お)い茂る月の意味で、つまって、「やよい」となったという説が有力です。 また三月は、古来(こらい)より「桃の節句(せつく)、ひな人形を飾って女の子の成長と幸せを願う行事、「ひな祭り」が行われてきました。 実は、「ひな祭り」

は、身の穢(けが)れを祓(はら)う行事、「上巳(じょうし)の祓(はら)い」に由来(ゆらい)しています。 「上巳の祓(はら)い」とは、 三月に入ってから初めての巳(み)の日に、川や海で禊(みそぎ)を行い、酒を酌交(くみか)わして災厄(さいやく)を祓(はら)うという、中国で行われていた行事です。 奈良時代に、日本にも伝わったものであります。 宮中(きゆうちゆう)では、三月の巳(み)の日に、天皇陛下の大御体(おおみま)、お体を人形(ひとがた)で撫(な)でて、厄(やく)を移(うつ)し、お祓(はら)いをする行事となり、平安時代には貴族の間にも広まりました。 この祓(はら)いに使われていた素朴(そぼく)な人形が、

「雛(ひな)人形」の原形(げんけい)です。 当宮(とうぐう)では、三月五日に、上巳(じょうし)の故事(こじ)に倣(なら)い、冬禊(ふゆみそぎ)練成会(れんせいかい)が、開催(かひ)されました



下関市内の青年神職、氏子青年の方々が、西山海岸の海に入り、禊(みそぎ)をされたのです。 旧土佐藩士で、自由民権運動(じゆうみんけんうんどう)に身をやつした、植木枝盛(うえき えもり)氏は、「その胸中(きゆうちゆう)に過去(かこ)があるものそれを老人(らうじん)という その胸中(きゆうちゆう)に未来(みらい)があるものそれを青年(せいねん)という」という言葉(ことば)を残(のこ)されました。 身(み)も心(こころ)も清々(せいせい)しく、明(あ)き清(せい)き誠(まこと)の心(こころ)で神明(しんめい)に御奉仕(ごほうじ)しようという心意気(こころいき)、まさしく、青年(せいねん)の志(こころざし)であり、心(こころ)から敬意(けいぎ)を

を表(あらわ)すものであります。

◇禊(みそぎ)は、身を削(そ)ぐ思いで、海(うみ)に入(い)ったり、滝(たき)に打(うち)たれたりして、罪穢(つみけが)れを清(きよ)める神事(しんじ)です。 罪(つみ)とは、神(かみ)様に、自分の心(こころ)を「包(つつ)み隠(かく)すこと」だと思います。 神様(かみさま)が、お与(あた)えになつた、正直(まこと)で無垢(むく)な心(こころ)をとりもどさなければなりません。 さらに、穢(けが)れとは、清浄(せいじやう)なる心(こころ)が、「枯(か)れる」、「氣枯(きが)れ」ではないかと思(おも)います。 常(つね)に、氣持(きもち)を枯(か)らさないように、心(こころ)を清浄(せいじやう)に保(たも)つことが大切(たいせつ)です。 とかく、せちがない世相(せいちやう)、コロナ禍(か)四年(よんねん)目の現在(いま)、

「包(つつ)み隠(かく)さず」、「氣枯(きが)れ」なく生活(せいか)をすることは、容易(よゆう)な心(こころ)が肥大(ひだい)して、調和(てんわ)をみだし、協力(きやうりき)が難(がた)しくなります。 排斥(はいせき)や攻撃(こうげき)、破壊(はかい)といったお互(たがひ)いの不幸(ふこう)を招(まね)いてしまうのです。 神社(じんじゃ)神道(しんどう)は、「つながりの宗教(しゆきやう)」であります。 神様(かみさま)、大自然(たいてんぜん)、そして、人々(ひとびと)につながつて、共に生(い)きてきたのであります。 作家(さか)の司馬遼太郎(しばりやうたろう)さんは、「昔(むかし)も今(いま)も、また未来(みらい)においても変わ(かわ)らないことがある。 そこに空(く)気(き)と水(みづ)、それ(それ)に土(つち)などという自然(しぜん)があつて、人間(にんげん)は自然(しぜん)によつて生(い)かされてきた。 人間(にんげん)は、助け合(たすけあ)つて生(い)き

て生(い)かされてきた。 人間(にんげん)は、助け合(たすけあ)つて生(い)きて

ているのである。」と仰(おっしや)っています。司馬さんの仰っている、「助け合って生きていく」という社会を実現するためには、利他的(りたてき)な心、他人を思いやる心と行動が必要で、まさしくそれが、「包み隠さず」、「気枯れ」なく生活することではないでしょうか。あらゆるものとのつながりを大切にしながら、支えあい、尊(とうと)び合いながら生活をしなければならぬと思います。まさに、「共尊共生共栄(きしようそんきようせいきようえい)」です。春という字の象形文字(しょうけいもじ)は、桑の芽(こ)が伸び切った姿(すがた)をあらわしているそうです。私(わたし)どもも、春(はる)にあやかり、包み隠さず、気持ちを枯(かわ)らさず、「共尊共生共栄」の日々でありたいものです。

◇二月の祭典行事報告

- ▼月次祭 *二月一日、十五日
- ▼貴布祢神社月次祭 *二月一日
- ▼花手水実施 *二月三日〜十五日
- ▼節分祭 *二月三日
- ▼下関三井化学百周年記念植樹祭 *二月七日
- ▼紀元祭 *二月十一日
- 本宮 *午前十時
- 下関市建国祭 *午後二時

▼祈年祭

- ※本宮 彦島八幡宮 *二月十七日
- ※六連島八幡宮 *二月二十五日
- ※田の首八幡宮 *二月二十七日
- ▼朝粥会 *二月二十一日
- ▼天長祭 *二月二十三日



- ▼宮司家(柴田家)祖霊祭 *二月二十六日
- ◇二月の宮司動静報告
- ▼彦島八幡宮関係団体
- 神道会世話人会 *二月二十六日
- ▼山口県神社庁関係
- 下関支部幹事会 *二月六日
- 建国奉祝会実務者会議 *二月八日
- 山口県神社庁役員会 *二月十二日
- 支部長事務局長会議、例祭 *二月十三日
- 日本会議山口講演会 *二月十八日
- 巡回祭典後講話研修会 *二月二十一日
- ▼教誨師関係
- 釈放前指導講話 *二月二十八日
- ▼学校関係、その他
- 玄洋校区挨拶運動 *二月十日

- 西山小学校CS *二月十日
- 玄洋中CS *二月十七日
- 迫町自治会役員会 *二月十五日
- ◇三月の祭典行事予定
- ▼月次祭 *三月一日、十五日
- ▼貴布祢神社月次祭 *三月一日
- ▼横浜D・N・Aベイスターズ下関ファン集いの会必勝祈願祭 *三月四日
- ▼青年神職会氏子青年会合同冬禊 *三月五日
- ▼南風泊恵比須神社例祭 *三月十五日
- ▼朝粥会 *三月二十一日
- ▼春季祖霊祭 *三月二十一日

◇三月の宮司動静予定

- ▼彦島八幡宮関係団体
- 彦島八幡宮リーグ役員会 *三月十一日
- 維蘇志会二十周年記念例会 *三月十八日
- 神道会総会 *三月二十一日
- ▼神社庁関係
- 教化会議 *三月二日、八日
- 役員会 *三月九日
- 支部研修会 *三月十六日
- ▼教誨師関係
- 集合教誨 *三月十三日、二十七日
- ▼自治会関係
- 迫町ウォーク参加 *三月十一日
- 迫町自治会役員会 *三月二十二日